



Wilderness First Aid Workshop

-野外災害救急法 体験ワークショップ-

救急車が来られない・時間がかかる時、現場の人は何をすべきか

-処置や看護に長い時間がかかる状況（ウィルダネス状況下）では、それに対応する知識技術が必要です-

病院からは遠く離れた野外環境で発生した傷病者あるいは大規模災害が発生したとき。そこがもし携帯電波の圏外だったり、救助まで何時間もかかる場所だったら…。

現場の救助者にとって過酷な状況でも、傷病者の判断や行動の裏付けになる考え方。これが野外災害救急法の強みです。

過去の参加者からの感想

- 評価・観察方法で新しい方法を学べてよかった。
- 野外環境下でのファーストエイドの考え方が変わった。
- 野外と都市部の違いを理解できた。
- 体験的に学べてあっという間の2時間だった。
- 医療の人間でなくてもわかりやすい説明だった。 など

【ワークショップの特徴】

- ◇ 座学と体験を交えることで実践的に取り組みます。
- ◇ WMA カリキュラムの紹介だけでなく、短時間でも「学びになる」情報をおとどけします。



【WMA 体験ワークショップ開催要項】

2018/11/06 盛岡 岩手県林業技術センター

2018/11/11 仙台 ビーナッツ古川店

【プログラム】

- ◇ 「ウィルダネス」とはを知る。
- ◇ 「WMA」という団体の紹介
- ◇ 人体の構造の基礎
「酸素化」と「重要器官系」を知る
- ◇ 野外で使える評価の技術を知る。
- ◇ ケーススタディーから知る など

※内容は状況によって変更になることがあります。

Wilderness Medical Associates International (WMAI)

「野外・災害救急法コース」とは

WMAI の野外災害救急法コースは 1980 年代初頭に救命医師を中心とする野外救助活動の専門家グループにより北米で開発され、現在では世界中で年間 8,000 人以上の方々に受講して頂いております。一般社団法人ウィルダネス メディカル アソシエイツ ジャパン、通称 WMAJ は北米の WMAI の公式な日本支局として資格発行を行っています。

インストラクターは医療資格を持ち、また山岳ガイドやレスキュー隊としての経験を持つ「質の高さ」が特徴です。カリキュラムは「ウィルダネス状況下（医療体系への引き継ぎや必要な処置を受けるまでに長時間を要する）」で発生する傷病の判断と処置、経過観察や看護、過酷な自然環境下での考え方などを体系的にまとめた内容となります。座学を通じて頭で理論的に理解し、次いで実技を通じ体で覚える学習スタイルも特徴の一つです。

国内で開催中のコースはベーシックレベルから医療従事者限定レベルまで 5 種類ご用意しております。全てのコースには共通して以下の内容が含まれます；

- ① 一般原則（人体構造・救助での考え方・法律的な枠組み）
- ② 生命を支える 3 つの重要器官（各器官の仕組み、起こり得る傷病、処置方法）
- ③ 傷病者評価システム（包括的で系統的な傷病の判断方法）
- ④ 傷病のリスト化（今起こっている傷病と後に起こり得る傷病、環境的な問題）
- ⑤ Critical Thinking（分析的思考）に基づく行動計画
- ⑥ ウィルダネス状況下医療プロトコル

北アメリカでの実績としてはアメリカ山岳ガイド協会（AMGA）やカナダ山岳ガイド連盟（ACMG）の必須資格として位置付けられております。日本国内では長野県知事認定「信州登山案内人資格」制度、北海道知事認定「アウトドア資格」制度、東京都「自然保護指導員」、国土交通省と環境省が主任省である「川に学ぶ体験活動協議会（RAC）」、北海道教育大学「アウトドアライフ専攻」等において必修救急法の一つとして指定されております。

その他に、南阿蘇村観光 PR 事業部実行委員会、御蔵島観光協会、学校法人「屋久島おおぞら高等学校」、公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会、株式会社アウトドアサポートシステム、屋久島ガイド連絡協議会、有限会社イングリッシュアドベンチャー、とっとり因幡グリーンツーリズム推進協議会、特定非営利法人飛騨小坂 200 滝、特定非営利活動法人 NPO さんじょう、(独) 国立赤城青少年交流の家、くにびき自然学校、株式会社キャニオンズ、NPO 法人森のこだま、特定非営利活動法人体験学習ネットワーク、公益財団法人キープ協会、生駒ランニングクラブ、只見町観光まちづくり協会等では定期的にコースを招致開催して頂いております。

その他、全国各所で WMAJ 主催の公募型コース開催も開催中です。